

日本の若者は地球市民をめざす

一般社団法人移民政策研究所 所長 坂中 英徳

1. 若者が主役のドラマが始まる

人口秩序が全面崩壊する時代が刻々迫る中、若い世代を元気にする目標がある。夢も希望もない未来が待っている若者のチャレンジ精神をかきたてるビジョンを提案する。若者が先頭を切って理想的な移民社会を築くというものだ。日本文化に憧れる世界の若者と日本文化を愛する日本の若者が協力し、日本人の和の精神が詰まった和風の移民社会を作ってほしい。

日本の未来を担う若い世代が移民と手を携え、世界の先頭を切って人類共同体社会の創成に挑む。これこそ閉塞感にさいなまれている令和の若者の最高最善の目標ではないか。

それは、日本と世界の若い世代が新しい生き方を模索する道でもある。日本の若者と世界の若者が真摯な態度で向き合えば、心の許容量が大きい日本人と、日本人が大好きな移民の心が一つになって平和・友好・共生の関係を築けると確信する。

最近、私を訪ねてくる大学生、高校生、中学生がとみに増えた。20代のエリート官僚の卵や若手のジャーナリストも、移民政策の勉強のために来る。彼ら、彼女らは、事前に移民政策研究所のホームページで政策提言や電子書籍を読み、日本型移民国家ビジョンのエッセンスを理解している。「若い世代の力を結集して人類

共同体社会を作らないと私たちの明日はない」「困難な課題であるからこそ挑戦のしがいがある」「日本型移民政策の提言に賛成。坂中移民政策研究所所長の志を引き継ぐ」など抱負を語る。

2020年7月現在、日本の若者の夢がかなえられる時代が視界に入ったと感じる。最近の移民政策研究所のホームページの「政策提言」への一日当たりのアクセス数が約5000件に及ぶ。地域社会の消滅に強い危機感を持つ国民が移民政策を支持する立場を鮮明にした。2018年10月の国会で移民政策をとるか否かの議論が始まった。これをもって1200年来の移民鎖国のタブーが解かれた。

移民国家の建国に生涯をかける私に残された最後のミッションが、移民立国の決断を政府に迫ることだ。死を意識する年齢になった最近は、これが最後の作品になるかもしれないと思って、若者の決起を促す論文を書いている。

この大詰めの仕事は多数の国民の協力を得て成し遂げたい。特に、日本の将来を担う若い人たちの力を借りたい。若者を中心に国民の圧倒的多数が移民受け入れに賛成というところまで世論を盛り上げ、平和的・民主的な方法で移民国家を打ち立てたいと、老革命家は意気込んでいる。

国民が新しい国づくりに積極的にかかわることなしに、すなわち歴史の必然や外圧によってなし崩し的に移民社会へ移行することになれ

ば、現世の人にも後世の人にも悔いが残る。それでは国民が燃えるような精神の高揚を感じることもない。歴史的な仕事に参画したという達成感も得られない。新しい国づくりに必要なエネルギーも生まれない。

移民国家を創るという千年に一回の大舞台で主導的役割を果たすのは国民だ。なかんずく年金制度も社会保障制度も崩壊寸前の時代を生きなければならない10代・20代の若い人たちだ。人口秩序を正すのに必要な移民政策をとることの賛否について議論を尽くし、日本人の心がこもった移民社会の創造に若い世代の全員が参加し、人類共同体社会の創成を究極の目標に掲げて前進してほしい。人類史的課題にチャレンジする日本の若者は、身近な存在の移民への思いやりの心と人類愛をかねそなえた地球市民に成長するだろう。

若い人たちの情熱が移民政策に消極的な政治の壁を突き破り、国の形を移民国家へ変えるのだ。同時に、移民鎖国時代に形成された内向き志向を改め、全人類に開かれたオープンマインドで移民と向き合う。そこから若者たちが主役を演ずる壮大な歴史ドラマが始まる。

20代の若者の50%が移民政策に賛成という『読売新聞』(2015年8月)の世論調査が示しており、若い世代の間に広がりつつある寛容の心は世界のトップレベルにあると言っても過言ではない。近時、欧米の若者の一部に人種差別と反移民感情の高まりが見られるが、健全な外国人観を持つ日本の若者は移民を人類同胞として温かく迎えるにちがいない。

ここで私の夢を一つ言わせてもらいたい。

「地球市民に必要な教養と寛容の心を備えた近未来の日本人は、日本列島全体を人類共同体社会に作り替え、同じ地球市民の移民の末裔たちと良好な関係を築き、平和に暮らしている」

2. マイノリティの立場に思いやる中学生

2016年11月、人口問題の解決策としての移民政策に関心を寄せる3人の中学生が訪ねてきた。この3人が学ぶ岡山県立操山中学校では、総合的な学習の時間を「未来航路プロジェクト」と名付け、生徒一人ひとりが自分で考えて研究課題を設定のうえ追究学習を行い、卒業時には20ページの卒業論文をまとめ、発表するならわしだと言う。

3人の生徒は、日本の人口減少問題を解決するためにも、日本も移民政策を導入すべきと考え、移民問題を研究テーマに選んだと言う。以下は岡山の中学生の質問要旨である。いずれも問題の核心を突いたいい質問である。

「移民を大量に入れるとなると、やはり移民してきた方々が孤立していくケースが考えられます。そのため、子どもの受け入れを多くし、日本の文化に幼いころから触れることによって、文化の壁を取り払うことができると考えました。子供の受け入れについてどこの地域から受け入れるべきかをお聞きしたい」

「現在、世界的に難民の問題が広がっています。そのような貧しい地域から親がいないなど困っている子どもたちを受け入れることによって、その方々の問題を解決するとともに、日本もいい方向に持っていけるのではないかと考えています」

「世界の移民国家で移民の受け入れを拒否する動きが見られますが、日本は移民を積極的に受け入れるべきという坂中さんの考えに変わりありませんか」

3人の中学生の問題意識と見識はすばらし

い。何よりもマイノリティの立場に思いやるやさしい心がある。質問に触発されて専門的なことに話が及んだが、議論がかみ合った。1時間30分、中身のある討論ができた。欧米の移民大国が反移民に舵を切っても移民政策を推進する私の考えに変わらないと述べると、3人の笑顔が現れた。最新作の『私家版 日本型移民国家が世界を変える』を手渡しして一読をすすめた。別れ際に「移民政策の研究を続けてください」と言い添えた。

移民政策の研究に励む中学生は日本の明るい未来を切り開く「金の卵」である。弱者へのいたわりの心がある少年・少女たちが率いる移民国家ニッポンは「世界で移民が最も住みたい国」のトップに躍り出るだろう。

3. 多民族共生教育について考える

大量移民時代を迎えると、小中学校に通う移民の子供が急増する。当然、移民の子と机を並べて勉強する小中学生向けの多民族共生教育が重要になる。その場合、多民族共生社会を創るため、幼児教育および初等中等教育のあり方を根本から見直すべきだ。

移民開国をきっかけにして、いま日本の幼稚園、小学校、中学校で行われている画一化教育はやめる。子供の個性と多様性を重んじる教育を採用する。

多数派の日本人は少数派の移民の文化を尊重する。移民がその民族的特性を持ち続けられる社会をめざす。そうしないと、せっかく移民を入れても多様性に富んだ移民社会が形成されないからだ。

日本人の子供と移民の子供が天真爛漫に遊ぶ社会を作るため、「人類は多にして一」という人類社会の本質を子供に教える。移民の子と一緒に学び遊ぶ日本人の子は、異なる民族との交流で日本人であることに目覚める。移民の子と

のはだかの付き合いを通して人間は多様なものであることを肌で知る。同時に、人種や民族が異なっても同じ人間であるという人類の本質を理解する。学校で移民の子との異文化交流を体験した日本の児童・生徒・学生は「民族の心」と「寛容の心」をあわせ持つ日本人に成長するだろう。

家庭においても、地球上には多様な人種・民族が存在すること、すべての人種・民族に優劣はないこと、日本人は地球文明においてかけがえのない存在であることについて親と子でとことん語り合ってほしい。

移民と共に学んで地球市民に成長する日本の子どもたちに、人類共同体社会を創る夢を託す。それは、いろんな顔の民族と一緒にいるだけで幸せな気持ちになる日本人と、思いやりの心が豊かな日本人を敬愛する移民がともに生きがいを感じる社会である。

4. 民族の心と寛容の心を兼ね備えた日本人になってほしい

私は、人口危機を、日本が人類共同体社会に飛躍する千載一遇の好機と認識する。賢明な日本民族が、移民の力を借りて人口秩序の崩壊危機を乗り切るとともに、日本民族その他すべての民族がうちとけて一つになる「多民族共生社会」の創建に挑む。日本列島の津々浦々に様々な民族が居住する社会を創り、もって世界の青少年が日本永住を夢見るユートピア社会の実現につとめる。

わかりやすく言えば、「人類共同体社会とは、それぞれの民族が存在感を持ち、しかも日本国民としての一体感をいなく社会」と定義する。日本人のほか、モンゴル系日本人、アフリカ系日本人、ヨーロッパ系日本人、アラブ系日本人、アメリカ系日本人など様々な系統の民族出身者が日本国民として一つにまとまる社会だ。来る

べき多民族社会においては、異なる文化を背負って生きる「新しいタイプの日本国民」の存在が欠かせないと考えている。

諸民族が団結して一つの国民になるためには、「人類は一つ。人種・民族・宗教が異なっても同じ人間」という文化人類学の常識を共有することが必須条件だ。

そのとき古代から日本各地に定住していた日本人の血をひく人々に求められるのは、日本人としての民族的アイデンティティを持ち、かつ異なる民族を対等の存在と認めることである。日本人の根本精神を堅持するとともに、少数民族の固有文化を尊重しなければならない。

以上に述べた「民族の心と寛容の心を兼ね備えた人」が、私が考える「理想の日本人」である。

世界の諸民族が日本に永住したいと思う国は、日本人が日本人としての誇りを持ち、移民が移民としての誇りを持つ社会だ。誇り高い日本人と誇り高い移民の双方が、互いの生き方を尊重し、共に生きる社会が、私が思い描く人類共同体社会である。

5. 単一色の濃い民族は地球時代を乗り切れない

ほぼ単一民族から成る国民が一丸となってがんばり、日本は世界有数の経済大国にまでなりました。しかし、21世紀に入ってから、経済の凋落と国勢の衰えが目立つようになった。加えて政治と行政の劣化が誰の目にも明らかになった。

その根底に人口減少問題があることは否定できないが、それだけではない。同文同種の人間が同一方向に一斉に走り出す傾向が見られる日本人オンリーで政治・行政・経済・社会を運営する体制に限界がきたからだと考えている。

地球時代に入り、多角的な視点から人間社会

の万象を見る必要性が高まる中、均一性の強い民族の視野の狭さがそれと関係があると認識している。

日本の人口問題は日本人の数の激減にとどまらない。量の問題よりももっと深刻な質の問題がある。政治を筆頭に、行政、経済、教育、学術、ジャーナリズムなどの分野で世界の人材と互角に渡り合う人材が枯渇しつつあるということだ。ここにその何よりの証拠がある。

まさに令和の時代、人口秩序の崩壊という前代未聞の国家的危機に直面し、時代は日本社会の根本的変革と取り組む革命家と、地球市民として世界に羽ばたく世界人材を緊急に必要としている。だが、そのような逸材は日本のどこを探しても見当たらない。

帝国主義の黄金時代であった幕末から明治にかけての激動の時代、西洋列強による植民地支配の脅威と戦うサムライが輩出した。当代の日本は国家と民族の生き残りがかかると一大危機にある。そのことが誰の目にも明らかになった令和の世には、どうして世界的視野から国家戦略を考える「七人の侍」が現れないのか。

ただでさえ均質性の高い民族であるのに、それに輪をかけた画一化教育で育った政治家、官僚、経済人など日本のエリート層の生態を観察すると、上からの指示や社会の空気に唯々諾々と従う日本人が多くなったように感じる。

もっと言えば、今日の世界は地球上を舞台に大量の核兵器を保有する米国、ロシア、中国の核超大国がしのぎを削る時代に入ったが、島国に取り残された単一色の濃い民族のままだと、たとえば宇宙船地球号の乗組員の視点から核戦争の脅威にさらされている地球社会の全体像をリアルにとらえることができないのではないか。

生物の世界では雑種は純種よりも生命力が強いとされる。交雑によって品種も改良される。生物の一員である人間の世界も同じだ。新しい民族の血が絶え間なく入る移民社会のほうが民

族の純血性を誇る単一民族社会よりも生きながらえる確率が高いのではないか。物事を単眼で見える国民よりも複眼で見える国民のほうが視野も広く、地球上で適者として生き残る可能性が増すのではないか。純血型の民族よりも混血型の民族のほうが新型コロナウイルスなどの病原体に対する免疫力でも勝るのではないか。

地球時代の日本の興亡をかけて、世界の諸民族を移民の地位（将来の国民）で迎え入れ、国民の構成を一段と多民族化させる時がきた。1000万人単位の移民を将来の国民として受け入れ、多彩な顔を持つ国民に生まれ変わるのだ。

6. 100年後の日本——ハイブリッドジャパン

日本人は古来、海を渡って孤島にきた外国人を尊敬の念を持って迎え入れた。異なる民族を賓客として遇する心がある日本人は、「地球市民の心」の本質を誰よりも理解できる存在ではないか。極東に位置する列島国としての地理的条件が幸いし、現代の日本人には他の民族を「夷狄」とみなす観念はない。外国人に対する恐怖心や排外的感情も比較的希薄である。

精神的な許容性が広い日本人が人類共同体社会の創造を目標に努力すれば、22世紀の日本は世界の人々が安住の地に選ぶ地上のパラダイスに発展するだろう。地球文明における日本文明の存在理由はいっそう高まるだろう。

古代から万物平等思想を信奉する日本人の心の中には、肌の色や宗教が異なっても人類同胞として外国人を暖かく接遇する精神的素地がある。外国人の持つ価値観や文化に好奇の目を向け、それらを上手に取り入れる智慧がある。

国が移民の入国の扉を開けば、世界中から毛色の変った魅力的な人が日本に移住してくるだろう。いっばう、日本の若者も移民を日本に惹きつける魅力がある。江戸時代、西洋の知識

人が日本女性の美德と浮世絵の美人画イメージを世界中に広めてくれたおかげで日本女性は世界の男性の憧れの的である。世界の人々の頭の中に禅と侍の印象がインプットされている日本男児も負けていない。

以下は、私が夢に見る100年後の日本人の姿である。

「移民開放政策を貫いた結果、2000万人の移民とその末裔たちが日本で生活している。日本の若者と世界の若者の結婚がごく当たり前になり、魅力的な混血児が続々誕生している。移民国家ニッポンは世界の先頭を切ってハイブリッドジャパンの道を歩んでいる」

7. 世界でいちばん移民に開かれた国

10年ほど前、西洋の知識人から、「1000年以上も移民鎖国を続けてきた日本人が、今後50年間で1000万人もの移民を受け入れることができるのか」という的を射た指摘があった。

2016年を境に移民政策をめぐる世界の空気は激変した。世界の中の日本の移民国家ビジョンの立つ位置にも大きな変化があった。今の私は、米国、フランスなどで人種差別・移民排斥・反イスラムの動きが強まるなか、日本オリジナルの移民政策に基づく1000万人の移民受け入れを政府に迫っている。それとともに、世界の知識人に向かって日本の移民国家ビジョンの持つ正当性と世界的意義を強調している。確かな手応えを感じる。

英国、フランス、ドイツがさらなる移民を受け入れる余力を失いつつあるとともに、米国がメキシコとの国境線に壁を築く状況は、日本が移民政策で世界に貢献するまたとない機会であると時代を読む。1789年のフランス革命以後、世界の思想界に君臨してきた西洋文明の自由・平等・博愛の精神にかげりが見られる今こそ、

私たちは日本人の持つもてなしの心で移民を温かく迎え入れ、世界の移民政策をリードする気概を持って、新世界文明の創造に貢献する時である。移民問題で西洋諸国の権威が地に落ちた状況を日本が移民国家として反転攻勢に転じるチャンスととらえ、日本の存在感を世界の人々にアピールしよう。

世界に類のない崇高な移民国家の理念を提唱しているだけではない。日本の国家目標として世界初の人類共同体社会の樹立を提案している。私たち日本人は、人種・民族・宗教・国籍の異なる人たちが人類同胞として共に生きる社会の実現をめざす。100年の歳月をかけて国の形を人類共同体社会に作り変える遠大な計画だ。

世界中の国々で人類共同体社会が形成される大望を抱く私の夢が尽きることはない。日本の精神文化の粋を集めた移民革命思想が世界の人々の心を動かし、地球規模での人類共同体社会と世界平和体制が実現する時代を見させている。それは、日本の移民政策が世界のモデルとなって世界の移民政策の根本的変革を迫るものである。

あたらしい未来を作る若い力の胎動を感じる坂中英徳移民政策研究所所長から内閣総理大臣へのお願いがある。異国の民に対する思いやりの心がある若者に生きる希望を与えてほしい。令和の時代を象徴する国の目標を「世界でいちばん移民に開かれた国」としていただきたい。若い世代はいたわりの心で移民を歓迎する。目指すべきは世界の人々が日本への移住を憧れる移民社会のユートピアを打ち立てることである。

8. 製造業の存続に移民政策が欠かせない

日本の産業力・技術力を根底で支えている中小・零細の町工場などが、後継者難による人材不足から次々と廃業に追い込まれていると指摘されて久しい。コロナ問題による経営危機と人

口激減の直撃が重なって存亡の危機に追い込まれている中小企業に人材を潤沢に供給しないと、日本の歴史的産業遺産とも言うべき東海道工業ベルト地帯の存続すら危うくなる。

たとえば、日本の産業界の雄であるトヨタ自動車の傘下の企業の一角が、働き手の確保がむずかしくなって倒産するというような事態が生じると、その影響は日本の産業全体に及ぶ。日本産業の置かれている危機的状況は単なる労働需給の問題ではない。産業の全面崩壊の事態にどう対処するかという構造的かつ深刻な問題である。

トヨタ自動車は国内300万台生産体制を死守すると言っている。国としてもトヨタの愛国の心にこたえる必要がある。トヨタの国内生産体制を支えるため、海外から製造技術者を移民として迎え入れ、トヨタ関連の中小企業に配置すべきだ。

2018年10月、政府は経済界からの要請を受けて、産業機械産業、電子・電気機器関連産業などに係る在留資格を新設する方針を決めた。

自動車産業が新鮮な人材の不足で苦悩している今日、国は、世界の若者を工業専門高等学校において熟練技能者の卵に育て、就職が決まった外国人には「製造業」(新設)の在留資格を決定し、入国後5年をめどに永住を許可すべきだ。出入国管理行政面からも、日本の物づくりを担う中小・零細企業の求めに応じて永住目的の外国人材を円滑に供給するなど製造業の振興に一役買うべきである。